

神戸市歴史公文書館 展示方針

令和7年3月

神戸市 行財政局総務課文書館

神戸市歴史公文書館 展示方針

目次

1	展示室の理念	1
(1)	経緯と位置付け	1
(2)	目的	1
①	神戸市の歴史や政策の成り立ちを伝える	1
②	公文書の意義・重要性と、保存して将来に残すことの意義・重要性を伝える	1
2	展示計画	2
(1)	展示の基本方針	2
(2)	主な対象	2
(3)	展示構成	2
①	展示室1・2「神戸市政のあゆみ」	3
②	展示室3「神戸市歴史公文書館」「旧岡方倶楽部」	3
(4)	展示の資料及び手法	3
①	展示資料	3
②	展示手法	4
3	施設計画	4
(1)	施設の構成	4
①	神戸市歴史公文書館の施設概要	4
②	神戸市歴史公文書館の平面計画	5
(2)	空調設備・照明機器	5
(3)	展示ケース	5
4	整備スケジュール	5
参考	展示候補資料	6

1 展示室の理念

(1) 経緯と位置付け

本市は、1889（明治 22）年の市制施行以来、数多くの先駆的施策や事業を行い、また、災害や戦災を乗り越え発展してきました。このたび、本市の歴史的事実の記録であり、市政を跡づけ検証するための重要な資料である歴史的公文書等の適切な保存・活用を進めることを目的とし、歴史公文書館を設置します。

2022（令和 4）年度には「（仮称）神戸市歴史公文書館整備に向けた基本的考え方」を策定し、2024（令和 6）年 3 月から新築・改修工事を進め、2025（令和 7）年 10 月に完了、2026（令和 8）年 6 月の開館を目指しています。

本市に住み、働き、学ぶ人びと、本市を訪れる多様な人びとの歴史的公文書等への認知を高め、神戸市の歴史について理解を深めるとともに、次代の文化創造やまちづくりにつなげるための普及啓発として、歴史公文書館内に展示室を整備します。

(2) 目的

歴史公文書館における展示は、市内外の多様な人びとに、次の 2 点を伝えることを目的とします。

① 神戸市の歴史や政策の成り立ちを伝える（展示室 1・2）

歴史公文書館は、神戸市役所にとって歴史的に重要な公文書を保存し、歴史的・文化的資産として将来につなぐ機能を有します。歴史公文書館における展示は、1889（明治 22）年の市制施行によって成立した神戸市の歴史や成り立ち、神戸市政としての意思決定の過程について理解を深められる内容とする必要があります。

展示室 1・2 の「神戸市政のあゆみ」は、『新修神戸市史 行政編』（Ⅰ～Ⅲ、新修神戸市史編集委員会編、1995～2005 年）を参考にした展示内容とし、市制施行から 2025（令和 7）年までの神戸市政の歴史を伝えることが求められます。

② 公文書の意義・重要性と、保存して将来に残すことの意義・重要性を伝える（展示室 3）

本市は、歴史公文書館の開館とともに、公文書管理条例の制定を予定しています。自治体の政治・行政は記録や文書に基づいて適切に行われる必要があります。またこれらが適正に検証・評価されるためにも、公文書が作成・保存されていることは不可欠です。公文書の重要性や、歴史的事実の記録として現在および将来の市民への説明責任を果たす歴史的公文書を保存し、将来に残すことの意義・重要性を伝える展示とすることが重要です。

展示室 3 の「神戸市歴史公文書館について」は、神戸市文書館（1989～2025 年、中央区熊内町）の市史編集事業を振り返り、歴史公文書館の開設経緯と概要や神戸市役所の公文書管理について紹介する展示内容とすることが求められます。あわせて、歴史公文書館の立地する国登録有形文化財・旧岡方倶楽部の概要についても紹介することとします。

2 展示計画

(1) 展示の基本方針

歴史公文書館の展示エリアは、別館2階の展示室1・2が一室あたり約25㎡、3階の展示室3は約120㎡のうち一部となります。限られた面積を有効に活用するために、展示レイアウトや展示方法の工夫が求められます。

例えば、展示室1・2では、グラフィックウォールの展示内容と展示ケース内の資料を一体に設計すること、展示室3では、可動式の展示パネルと展示ケースを用いる柔軟な配置の展開を検討します。

また、グラフィックウォールと展示ケース内キャプションの内容に加えて、デジタルサイネージやQRコード等を用いた充実した解説の作成によって、多様な人びとの理解・学びにつながる展示を目指します。

展示室3を会場とする企画展示は、所蔵品を活用したものと、他機関等からの借用資料を含むもの、二つの方向で展開することを検討します。

【展示エリアの展開例】

展示スペース	パターン1	パターン2	パターン3
展示室1 (約25㎡)	常設展示 (神戸市政のあゆみ1)	常設展示 (神戸市政のあゆみ1)	常設展示 (神戸市政のあゆみ1)
展示室2 (約25㎡)	常設展示 (神戸市政のあゆみ2)	常設展示 (神戸市政のあゆみ2)	常設展示 (神戸市政のあゆみ2)
展示室3 (約120㎡)	常設展示 (神戸市歴史公文書館) (旧岡方倶楽部)	企画展示(所蔵品を活用) 常設展示 (神戸市歴史公文書館) (旧岡方倶楽部)	企画展示(借用資料を含む)

(2) 主な対象

本市に住み、働き、学ぶ人びと、本市を訪れる多様な人びとを対象とします。

このたび、神戸市は初めて公文書館を設置することから、本市の歴史や成り立ちとともに、それを跡づける公文書や歴史的公文書等の意義・重要性をわかりやすく伝えることが重要です。

また、歴史公文書館が建設される立地を踏まえると、兵庫の歴史や魅力を学ぶ展示施設である兵庫県立兵庫津ミュージアムとあわせて、見学に訪問されることが見込まれます。こども・若者にも理解できる分かりやすい解説を付し、館の目的や役割について理解できる展示とすることも重要です。

本市や近隣地域に観光等で訪れた人への視点も欠かせません。そのうち、国外からの来館者にも配慮した展示の工夫として、多言語の展示解説も検討する必要があります。

(3) 展示構成

歴史公文書館の展示は、別館2階の展示室1・2(約25㎡/室)と3階の展示室3(約120㎡)からなり、神戸市の歴史文化と歴史公文書館について学びを深める内容とします。

① 展示室 1・2「神戸市政のあゆみ」

別館 1 階から階段を上った際に最初に目に入る一室を展示室 1 とします。

神戸市の歴史について、1889（明治 22）年の市制施行から現代に至るまでの神戸市政のあゆみを歴代市長の重要施策を軸にしてつなぎ、歴史的公文書や写真等を用いたグラフィックウォールで、わかりやすく解説することが求められます。

各室に 3～4 台の展示ケースを設置し、歴史的公文書等にキャプションを付した展示を検討し、資料から明らかになる神戸市の歴史的事実を、小中学生にも理解できる平易な文章で伝えるものとします。

なお、収蔵する資料を用いた展示室の整備とは別に、各室にデジタルサイネージ 1 台ずつの設置と HP によるデジタル展示の構築を予定しています。

② 展示室 3「神戸市歴史公文書館」「旧岡方倶楽部」

神戸市歴史公文書館の経緯や機能等と、別館にあたる国登録有形文化財・旧岡方倶楽部について、グラフィックと所蔵資料の解説を用いて、わかりやすく紹介します。

展示室 3 は定期的に企画展示室として使用するため、神戸の歴史や文化等に関する企画展や関連する講演会等を実施する際には、今回、常設展示として制作する内容から展示替えを行います。そのため、展示什器類をできるだけ可動式とし、柔軟に配置できる展開を検討します。

企画展示は、所蔵品を活用したものと、他機関等からの借用資料を含むもの、二つの方向で展開することを検討します。

また、展示室 3 の西側は、歴史的公文書の移管・整理作業時に使用することも想定します。

【参考：文書館の企画展示例】

生粋の神戸人間 池長孟の足跡—建物の記憶をたどって—

布引—景勝地から遊園地、テーマ型都市公園へ—

近代神戸の開かれた六甲山

神戸と難民たち

都市と戦争—新資料に見る防空と戦災—

幻の公会堂と神戸モダニズム—未公開設計図集と昭和初期 街の風景—

市史発行記念—近代神戸の産業経済史—

戦時下に起こった阪神大水害

近代神戸の風景—レファート写真コレクション—

兵庫運河のあゆみ—八尾家文書を中心に—

鹿島秀麿と明治の神戸

井上善右衛門家文書展

(4) 展示の資料及び手法

① 展示資料

神戸市歴史公文書館（神戸市文書館）の所蔵する資料を中心に、他機関（神戸市立中央図書館、神戸市立博物館等）の所蔵資料を借用して複製物を作成するこ

とも含めた展開を検討します。また、文書に限らず、写真、物品などの資料も活用した展示とします。

決定した文書だけではなく、それに至る意思決定過程の資料等もあわせて示すものとします。また、個々の資料については、どのような経緯があって保有されているかの来歴を示した展示を行うものとします。

② 展示手法

文字説明、デジタルコンテンツ、関連物品などにより、歴史的公文書等を多角的に展示、解説します。

常設展示においては、資料の特性や展示のコンセプトを踏まえたグラフィックウォールの制作とケース展示を行います。展示に活用する歴史的公文書は、撮影・画像処理を行い、用紙に出力し、古色加工等を行って複製物を作製することによって、歴史的に重要な公文書の長期保存・アーカイブ化と展示制作を一体に進めるものとします。

3 施設計画

(1) 施設の構成

① 神戸市歴史公文書館の施設概要

所在地 神戸市兵庫区本町2丁目3-33

敷地面積 約 1,211 m²

歴史公文書館（本館） ※新築

- ・構造等：RC造一部S造5階建
- ・建築面積：約 352 m²／延床面積：約 1,596 m²
- ・主な機能：
 - 1階 閲覧・開架スペース、事務室、会議室
 - 2～5階 書庫

旧岡方倶楽部（別館） ※改修

- ・構造等：RC造3階建
- ・建築面積：約 187 m²／延床面積：約 537 m²
- ・主な機能：
 - 1階 事務室、書庫
 - 2階 展示室1・2
 - 3階 展示室3

駐車場

- ・障害のある方などを対象とした駐車場1台分

② 神戸市歴史公文書館の平面計画

別館の展示室にかかる1～3階の平面計画と展示室の場所、室内を改修工事前に撮影した写真は、次の通りです。



なお、展示室へのアクセスとして、（ア）別館1階から階段を上がる動線と、（イ）本館のエレベーターで2階や3階へ上がり、渡り廊下で接続した別館に向かう動線の二通りを想定します。展示室に職員は常駐せず、質問がある場合には本館1階の閲覧室を訪れるものとします。

（2）空調設備・照明機器

歴史公文書館別館は歴史的建造物のため、構造と面積等から改修の制約があり、十分とは言えない展示環境にあります。そのため、照度・温湿度の管理は難しいことを前提に、展示物や展示方法を検討することが求められます。

また、展示室は三室ともに無人（監視カメラの設置あり）で公開する予定です。セキュリティの面も実施設計内での検討を要します。

（3）展示ケース

展示室1・2の展示資料は原本とする想定にないため、展示ケース7台の仕様はノンエアタイト式、高透過ガラスとします。

展示室3は企画展示を行う際に、原本資料の展示も想定するため、展示ケース6台の仕様は気密性の高いエアタイト式、高透過ガラスとします。また、室内レイアウトを適宜変更する計画につき、職員が動かすことのできる可動式展示ケースの選定が求められます。

4 整備スケジュール

2022（令和4）年12月

「（仮称）神戸市歴史公文書館整備に向けた基本的考え方」の策定

2022（令和4）年度

歴史公文書館実施設計

2024（令和6）年3月

（仮称）神戸市歴史公文書館新築他工事

2025（令和7）年3月	「神戸市歴史公文書館 展示方針」の策定
2025（令和7）年度	歴史公文書館展示室 実施設計業務
2025（令和7）年10月	工事完了予定
2025（令和7）年11月～	書架納品・設置工事予定
2025（令和8）年1～3月	歴史公文書館展示室 制作業務
2026（令和8）年6月	歴史公文書館 開館予定

参考 展示候補資料

2024（令和6）年度レプリカ作製

- ・「築港に関する経済調書」庶務課、明治39年【歴史的公文書】
- ・『神戸市民読本』神戸市役所編、大正14年【図書】
- ・「防空費追加予算原議」防衛局、昭和17年【歴史的公文書】
- ・「合併資料 淡河村」企画室、昭和32年【歴史的公文書】 他